

平成 29 年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 最優秀賞
(国土交通大臣賞)

「土砂災害犠牲者ゼロ」

神奈川県 相模原市立並木小学校 6年 平石 翔大

今年の7月、夏休みが始まる2週間ほど前に九州北部豪雨が発生しました。5日から6日の2日間に、福岡県朝倉市で、1時間当たりの最多雨量は、129.5ミリを観測したそうです。死者36人、負傷者14人、家もたくさん壊れ、被害総額も1400億円に上るそうです。テレビや新聞のニュースで悲惨な様子を見て、僕は心からかわいそうだと思います。どうしたら防ぐ事ができるのか、もっと詳しく調べてみました。

過去に広島県でも、平成26年8月20日の集中豪雨によって発生した土砂災害で、死者77人、負傷者44人も犠牲者が発生しています。広島県安佐北区で、1時間当たりの最多雨量は121ミリを観測されています。新聞によると、一般的に雨が1時間に50ミリを起こすと災害が起こりやすく、年間の統計では、50ミリを越す雨の回数が増えていて、さらに土砂災害は毎年600から1000件以上発生しているそうです。

調べているうちに、だんだん恐くなってきて、僕の家や学校は大丈夫だろうかと考えるようになりました。豪雨による土砂で家や学校が流されても困ってしまいますが、怪我をしたり、死んでしまっははどうしようもありません。犠牲者を1人も出さないようにするには、危ないと思ったら安全な場所に早く避難する事だと思います。でも、土砂災害が発生しそうな時、安全な避難場所はどこか分からないと逃げられません。

そこで、僕は相模原市の危機管理課に行って質問してきました。危機管理課の方に「土砂災害ハザードマップ」を見せて頂き、詳しく教えてもらいました。ハザードマップは初めて見ましたが、普通の地図ではなく、航空写真が背景になっていて、どこがどのように危険なのかがはっきりと分かり、とても見やすいものでした。土砂災害の種類は2つあります。1つ目は、「急傾斜地の崩壊」、つまり崖崩れの事で、傾斜角度が30度以上ある土地が崩れる自然現象。2つ目は、「土石流」崩れた山腹や溪流の土石等が流れ下る自然現象。このような土砂災害が発生しやすい場所が、「土砂災害ハザードマップ」に分かりやすく示されています。

僕の住む中央区あたりのマップは作成中で、まだ完成していませんでしたが、緑区津久井湖周辺のハザードマップをコピーしてもらいました。これを良く観察すると、津久井湖に向かって高い所から低い所へ扇型に警戒区域が線で囲んでありました。つまり、住んでいる場所の地形が土砂災害の発生に繋がっていると思いました。僕の家や学校周辺は、平らで安全そうに感じますが、本当に大丈夫でしょうか。広島県の土砂災害を調べた時に、新しくできた街が実は谷底だった事を知り、しかも昔は蛇落地悪谷(じゃらくじあしだに)という地名で、そこに浄楽寺が建立されて、地名も「上楽地」となり、今の安佐南区八木と変わってしまい、昔の人が谷底だから危ないと地名で教えていた場所で土砂災害が起こってしまったようです。これを聞いて、僕はどの土地も絶対安全とは限らないということを、改めて思いました。新しく引越して来た人は危険とは思わず生活していて犠牲になってしまったのかも知れません。

そこで絶対安全なんて思い込むのは良くないと思い、古地図を見たくて、図書館に行きました。図書館にあったのは、大正12年と昭和26年、47年と平成後の地図しかなく、見たかった古地図は博物館に保存されていて、一般にはみられなくなっていました。本当は古地図で家や道を作るために、平らにされる前の土地の様子をしりたかったのですが、それはできませんでした。

分かったのは、自宅周辺は広葉樹林と桑畑であった事と、谷や沢はなかったことです。調べて強く感じた事は、土砂災害から身を守るためには、「大丈夫だろう。」とか、「何とかなるだろう。」と決して思わず、防災に対して意識を高める事が大切だということです。1人1人それぞれが「避難する場所」「避難にかかる時間」「両親が不在で留守番をしている場合」などなどどうするか話し合い、知恵を出し合わなければならないと思います。そして、避難訓練を怠りなくやるのが実際に自分の命を守れるか守れないかにつながるのだと思います。